

三原中央図書館利用者アップ大作戦！～ポップづくり～

[なまえつけてよ（光村図書）]

第5学年 3名 指導者 原田圭輔

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、主体性・積極性、他者理解・他者との協働

単元について

本単元は、学習指導要領 C 読むこと「イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」「エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「オ文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」を受けて設定したものである。

本教材は、中心人物「春花」が子馬の飼い主から、その子馬に「名前、つけてよ」と言われたことから始まる三日間の物語である。対人物の「勇太」は無愛想な態度をするため、二人の関係はよくないものであったが、子馬の名前がつけられなくなったことから勇太の優しさに触れ、2人の関係に変化が起こる話である。

児童にとって、物語の主人公と同じ年頃であり、中心人物・対人物と自分とを比べて読むことができ、内面の心情や作者の伝えたいことが読み取りやすい教材である。また、三日間の物語であり、場面の移り変わりが捉えやすい教材でもある。

児童の実態

◎児童アンケート（肯定的回答の割合）

物語の学習が好き。	100%
読書をするのが楽しい。	67%

◎標準学力調査（正答率）

登場人物の様子を読み取ることができる。	33%
登場人物の気持ちを読み取ることができる。	33%

本学級の児童は、学習に前向きに取り組んでおり、物語の学習は好きである。しかし、叙述を基に登場人物の様子や気持ちを読み取ることが難しい。根拠を明確にせず、自分の意見や考えを發表することが多く見られる。大まかな内容をつかむことは速いが、大事な言葉（表現）や場面の移り変わりを押さえずに読んでいる。また、読書についても、じっくりと読んでいるとは言えない状況がある。

叙述をもとに、物語の流れに沿って心情や相互関係を想像すること、大事なことを押さえて自分の読みをもつこと、様々な物語をじっくりと読み、自分の考えをもつことに課題があると言える。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「三原中央図書館利用者アップ大作戦！」と設定し、自分たちが薦める本を紹介するためのポップを作る。そのために、「なまえつけてよ」をもとに、作者が作品に込めた思いを読み取ったり、作品のキャッチコピーを考えたりする。中央図書館を利用している人が読みたくなるようなキャッチコピーやポップを考えるという目的意識を持たせる。

第一次では、読者に本を読んでもらうために、本屋や図書館ではどんな工夫をしているのか確認し、その中で「ポップ」というものがあることに気付かせる。学校図書館司書と連携し、中央図書館の利用者（ターゲットは三原市内の小学5・6年生、中学1年生）を増やすためのポップを考えるという学習課題を設定する。

第二次では、「なまえつけてよ」をもとに、物語の「ナゾ」を解かせながら、登場人物の心情や相互関係、作者の作品に込めた思いを読み取らせたり、キャッチコピーやポップの作り方についてつかませたりする。

第三次では、自分が薦める本（テーマ「男女の友情について描かれた物語」）のポップを作らせ、友達と交流させたり、学校図書館司書から助言を受けさせたりして、よりよいものにさせる。

単元の目標

- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
【知識及び技能(1)オ語彙】
- 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 【読むことイ】
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
【読むことエ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【読むことオ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、ポップを作ったりすることができる。
【学びに向かう力、人間性】

単元を通した課題となる言語活動

三原中央図書館の利用者（三原市内の小学5・6年生、中学1年生）を増やすために、本を手に取りたくなるような、読みたくなるようなポップを作る。

単元でつける「ことばの力」（学習用語）

- | | |
|--------------|----------|
| 【読む】 | 【書く】 |
| ○中心人物 | ○ポップ |
| ○対人物 | ○キャッチコピー |
| ○相互関係（人物関係図） | ○あらすじ |
| ○場面 | ○おすすめ |
| ○題名 | |

評価規準

教科【国語科】でつける資質・能力			木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力
知識及び技能	思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力)	学びに向かう力、人間性 (☆主体性・積極性) (◎他者理解・他者との協働)	
物語を読んだり、ポップを作ったりする時に、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	<p>★登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 (構造化する)</p> <p>★人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (多面的に見る)</p> <p>★文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (要約する)</p>	<p>☆◎目的や相手意識をもって、文章を読んだり、ポップを作ったりしている。</p>	<p>【論理的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を使って、構造化している。 ・言葉にこだわり、物事について多面的に見ている。 ・ノートやメモをもとに要約している。 <p>【主体性・積極性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見，追究，解決を繰り返し，学びを連続，発展させている。 <p>【他者理解・他者との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のよさ，意見や考え方の違いを認め，受け止めている。

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 物語10の読みの視点を活用した一人学び

<p>①時…1日目 学校からの帰り，2日目 放課後，3日目 昼休み</p> <p>②場所…1日目 牧場・帰り道，2日目 牧場，3日目 学校</p> <p>③登場人物…春花，勇太，陸，牧場のおばさん，近所のおばあさん</p> <p>④中心人物…春花</p> <p>⑤対人物…勇太</p> <p>⑥出来事… ・牧場の子馬に名前をつけることになった。 ・牧場の子馬に名前をつけることができなくなった。 ・勇太が紙で折った小さな馬を春花に渡した。</p> <p>⑦結末…春花はボールを追いかけている勇太の姿を見つけ、「ありがとう」と心の中でつぶやいた。</p> <p>⑧物語を一文で表す…勇太に対してあまりよい見方をしていなかった春花が，勇太のさりげない優しさによって，勇太に対する見方や考え方がよくなった話。</p> <p>⑨語句の意味…「言葉をぐっと飲み込む」「不格好」「つぶやく」など</p> <p>⑩表現の工夫…「なまえつけてよ」(題名，漢字とひらがな)， 「らんぼうなぐらいに元気のいい字がおどっている。」(比喩) など</p>

(2) 物語の「ナゾ」の設定，解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

- はじめと終わりで春花と勇太の関係が変わったのは何がきっかけ?
- 勇太はどうして紙で折った小さな馬を春花に渡したのか?
- 春花はどうして「ありがとう」と心の中でつぶやいたのか?(直接言えばいいのに)
- 「名前，つけてよ。」と「なまえつけてよ。」はどうちがうのか?
- 題名はなぜ勇太が書いた「なまえつけてよ」になっているのか?

【他者との対話】

(1) 異学年学習の設定

上学年の6学年児童は昨年度，同時期に「三原中央図書館利用者アップ大作戦！」をしている。そのため，6学年児童はポップの作り方については学習をしている。そこで，6学年児童が5学年児童にポップのポイントやキャッチコピーの作り方等について教える学習活動を設定し，対話を促す。上学年から教えてもらうことで，自分たちの学習に対して主体的，積極的に取り組む姿勢を作ることができる。また，作ったポップを互いに見合う活動を仕組むことで，対話を促し，吟味検討をさせることができる。目的や相手を

意識した、妥当なポップになっているかを考え、判断させる。

(2) 学校図書館司書の指導

学校図書館司書から児童に指導していただくことで、ポップについての専門的な知見を児童に与える。それを通して、自分たちの知識や技能、考えを広げ、深めさせていく。大人との対話を入れることで、自分の読みについて再考する機会を与えることができると思う。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたこと、分かったことや学習での自分や友達のよかったところについて振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができると思う。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

並行読書で読んだ作品についてメモする読書記録とらせたり、誰がどの作品を読み終わったのかを把握できる一覧表にチェックさせたりすることで、読書への取組に対して自覚を促す。

(2) 活動の振り返り

ポップを掲示した後の利用者の状況について三原中央図書館から情報をいただき、児童に伝えることで、自分たちの活動の振り返りをさせる。成果や課題について整理し、他の学習へ生かす。

単元計画 (全8時間)

次	時	学習活動	評価			
			知技	読む	学び	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 学習課題「中央図書館利用者アップ大作戦！」を設定し、本のポップを見て、学習計画を立てる。			○	学習課題から学習の見通しをもち、学習計画を立てている。 (ノート、発言)
	2	情報の収集 物語「なまえつけてよ」を読み、一人学びをする。			○	本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート)
	3	情報の収集 整理・分析 登場人物関係図を作り、春花と勇太の相互関係を捉えることで、物語の「ナゾ」を解決する。		○		春花と勇太の相互関係や心情について描写を基に捉え、登場人物関係図に表している。 (ノート・話し合い)
	4	情報の収集 整理・分析 (本時) 題名に着目し、作者が物語に込めた思いについて考えることで、物語の「ナゾ」を解決する。		○		題名における表現の効果や物語の全体像から、作者が物語に込めた思いについて読み取っている。 (ノート・話し合い)
	5	情報の収集 整理・分析 作者が物語に込めた思いや自分のおススメポイントを整理して、キャッチコピーを作る。	○	◎		物語から読み取ったことをもとに自分の考えを整理して、キャッチコピーにまとめている。(ノート) 語感や言葉の使い方を意識してキャッチコピーを作っている。(ノート)
	6	まとめ・創造・表現 「なまえつけてよ」のポップを作り、互いに見合う。	○	◎		これまでの学習をもとにポップを作っている。(ポップ・行動) 語感や言葉の使い方を意識して、ポップをつくっている。(ポップ)
三	7・8	まとめ・創造・表現 自分が選んだ本のポップを作り、友達と見合いながらよりよいものにしていく。	○	○	◎	目的や相手を意識して、文章を読んだり、ポップを作ったりしている。(行動・ポップ) 「なまえつけてよ」の学習で学んだことを活用して、ポップを作っている。(ポップ) 語感や言葉の使い方を意識して、ポップを作っている。(ポップ)
	実行・振り返り		三原中央図書館 ポップを活用したコーナー作り			

男女の友情が描かれた作品の並行読書

三原中央図書館利用者アップ大作戦 part2! ~ポップづくり~

[カレーライス (光村図書)]

第6学年 5名 指導者 原田圭輔

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力, 主体性・積極性, 他者理解・他者との協働

単元について

本単元は、学習指導要領 C 読むこと「イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」「エ人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「オ文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」を受けて設定したものである。

本教材は、対人物「父」に素直に関われない中心人物「ぼく」(ひろし)が「お父さんウイーク」での関わりを通して、父に自分の成長を感じてもらうことで、だんだんと心の距離を縮めていく物語である。

児童にとって、物語の主人公と同じ年頃であり、中心人物と自分とを比べて読むことができ、一人称(中心人物の視点)で書かれていることで、内面の心情や作者の伝えたいことが読み取りやすい教材である。対人物との関わりもよく表現しており、登場人物の相互関係もつかみやすい教材でもある。

児童の実態

◎児童アンケート(肯定的回答の割合)

物語の学習が好き。	100%
読書をするのが楽しい。	100%

◎標準学力調査(正答率)

登場人物の様子を読み取ることができる。	80%
登場人物の心情を読み取ることができる。	100%

本学級の児童は、物語の学習や読書が好きである。物語を読む時には、集中して楽しみながら読んでいく姿が多い。しかし、叙述を基に登場人物の様子や心情を読み取ることが難しい。根拠を明確にせず、自分の意見や考えを発表することが多く見られる。また、自分たちの考えを吟味検討、深めるまでの話し合いを進めるまでには至っていない。大まかな内容をつかむことは速いが、大事な言葉(表現)や場面の移り変わりを押さえずに読んでいく。

叙述をもとに、叙述をもとに心情や相互関係を想像すること、大事な言葉を押さえて読みを深めることに課題があると言える。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「三原中央図書館利用者アップ大作戦 part2!」と設定し、昨年度の学習を振り返り、自分たちが薦める本を紹介するためのポップを新しく作る。そのために、「カレーライス」をもとに、作者が作品に込めた思いを読み取ったり、作品のキャッチコピーを考えたりする。中央図書館を利用している人が読みたくなるようなキャッチコピーやポップを考えるという目的意識を持たせる。

第一次では、昨年度の学習を振り返らせ、「ポップ」や「キャッチコピー」とはどんなものだったのか思い出させる。今年度も昨年度と同様に、学校図書館司書と連携し、中央図書館の利用者(ターゲットは三原市内の小学5・6年生、中学1年生)をさらに増やすためのポップを考えるという学習課題を設定する。

第二次では、「カレーライス」をもとに、物語の「ナゾ」を解かせながら、登場人物の心情や相互関係、作者の作品に込めた思いを読み取らせたり、キャッチコピーやポップの作り方についてつかませたりする。

第三次では、自分が薦める本(テーマ「重松清『小学五年生』収録作品」)のポップを作らせ、友達と交流させたり、学校図書館司書から助言を受けさせたりして、よりよいものにさせる。

単元の目標

- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
【知識及び技能(1)オ語彙】
- 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 【読むことイ】
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
【読むことエ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【読むことオ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、ポップを作ったりすることができる。
【学びに向かう力, 人間性】

単元を通じた課題となる言語活動

三原中央図書館の利用者(三原市内の小学5・6年生、中学1年生)を増やすために、本を手に取りたくなるような、読みたくなるようなポップを作る。

単元でつける「ことばの力」(学習用語)

- | | |
|--------------|----------|
| 【読む】 | 【書く】 |
| ○中心人物 | ○ポップ |
| ○対人物 | ○キャッチコピー |
| ○相互関係(人物関係図) | ○あらすじ |
| ○場面 | ○おすすめ |
| ○題名 | |

評価規準

教科【国語科】でつける資質・能力			木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力
知識及び技能	思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力)	学びに向かう力，人間性 (☆主体性・積極性) (◎他者理解・他者との協働)	
物語を読んだり，ポップを作ったりする時に，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使っている。	<p>★登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えている。 (構造化する)</p> <p>★人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。 (多面的に見る)</p> <p>★文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。 (要約する)</p>	<p>☆◎目的や相手意識をもって，文章を読んだり，ポップを作ったりしている。</p>	<p>【論理的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を使って，構造化している。 ・言葉にこだわり，物事について多面的に見ている。 ・ノートやメモをもとに要約している。 <p>【主体性・積極性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見，追究，解決を繰り返し，学びを連続，発展させている。 <p>【他者理解・他者との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のよさ，意見や考え方の違いを認め，受け止めている。

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 「物語10の読みの視点」を活用した一人学び

<p>①時…お父さんウィークの前日～3日目，月の半ば，4月か5月くらい（六年生になったのに…）</p> <p>②場所…「ぼく」の家</p> <p>③登場人物…ぼく（ひろし），父，母</p> <p>④中心人物…ぼく（ひろし）</p> <p>⑤対人物…父</p> <p>⑥出来事…お父さんとのけんか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは思わず「何か作るよ。ぼく，作れるから。」と答えていた。 ・お父さんが「おまえ，もう『中辛』なのか。」と言ったこと。 <p>⑦結末…残り半分になった今月の「お父さんウィーク」は，いつもよりちょっと楽しく過ごせそうに思った。</p> <p>⑧物語を一文で表す…お父さんに対して素直になれずにもやもやしていた「ぼく」が，自分の成長をお父さんが感じてくれたことによって，うれしくなった話。</p> <p>⑨語句の意味…「意地を張る」「そっぽを向く」「半信半疑」「ほお張る」など</p> <p>⑩表現の工夫…「ぼくは悪くない。」（一人称，書き出し）， 「ぴりっとからくて，でも，ほんのりあまかった。」（対比）など</p>
--

(2) 物語の「ナゾ」の設定，解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

- はじめと終わりでひろしとお父さんの関係が変わったのは何がきっかけ？
- 「カレーライス」は，ひろしとお父さんにとってどんなもの？
- 「お父さんがそう言ったとき，思わず，ぼくは答えていた。」…思わず答えていたのはどうして？
- 書き出し部分で言い切りや倒置表現，反復の表現がされているのは，どんな意味があるのか？
- 「ぼくたちの特製カレーは，ぴりっとからくて，でも，ほんのりあまかった。」…ぴりっとからくて，ほんのりあまいのはどうして？

【他者との対話】

(1) 異学年学習の設定

昨年度の同時期に「三原中央図書館利用者アップ大作戦！」をしている。そのため，児童はポップの作り方については学習をしている。一方，5学年児童はポップについての学習はしていない。そこで，6学年児童が5学年児童にポップのポイントやキャッチコピーの作り方等について教える学習活動を設定し，対話を促す。自分たちのこれまでの学習を意識化させることで，学習に対して主体的，積極的に取り組むことがで

きると考える。また、作ったポップを互いに見合う活動を仕組むことで、対話を促し、吟味検討をさせることができる。目的や相手を意識した、妥当なポップになっているかを考え、判断させる。

(2) 学校図書館司書の指導

学校図書館司書から児童に指導していただくことで、ポップについての専門的な知見を児童に与える。それを通して、自分たちの知識や技能、考えを広げ、深めさせていく。大人との対話を入れることで、自分の読みについて再考する機会を与えることができると考える。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたこと、分かったことや学習での自分や友達のよかったところについて振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができると考える。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

並行読書で読んだ作品についてメモする読書記録とらせたり、誰がどの作品を読み終ったのかを把握できる一覧表にチェックさせたりすることで、読書への取組に対して自覚を促す。

(2) 活動の振り返り

ポップを掲示した後の利用者の状況について三原中央図書館から情報をいただき、児童に伝えることで、自分たちの活動の振り返りをさせる。成果や課題について整理し、他の学習へ生かす。

単元計画 (全8時間)

次	時	学習活動	評価			
			知技	読む	学び	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 学習課題「中央図書館利用者アップ大作戦！」を設定し、本のポップを見て、学習計画を立てる。			○	学習課題から学習の見通しをもち、学習計画を立てている。 (ノート、発言)
	2	情報の収集 物語「カレーライス」を読み、一人学びをする。			○	本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート)
	3	情報の収集 整理・分析 登場人物関係図を作り、ひろしと父の相互関係を捉えることで、物語の「ナゾ」を解決する。		○		ひろしと父の相互関係や心情について描写を基に捉え、登場人物関係図に表している。 (ノート・話し合い)
	4	情報の収集 整理・分析 (本時) 書き出しや最後の一文に着目し、作者が物語に込めた思いについて考えることで、物語の「ナゾ」を解決する。		○		表現の効果や物語の全体像から、作者が物語に込めた思いについて読み取っている。 (ノート・話し合い)
	5	情報の収集 整理・分析 作者が物語に込めた思いや自分のおススメポイントを整理して、キャッチコピーを作る。	○		◎	物語から読み取ったことをもとに自分の考えを整理して、キャッチコピーにまとめている。(ノート) 語感や言葉の使い方を意識してキャッチコピーを作っている。(ノート)
	6	まとめ・創造・表現 「カレーライス」のポップを作り、互いに見合う。	○		◎	これまでの学習をもとにポップを作っている。(ポップ・行動) 語感や言葉の使い方を意識して、ポップをつくっている。(ポップ)
三	7・8	まとめ・創造・表現 自分が選んだ本のポップを作り、友達と見合いながらよりよいものにしていく。	○		◎	目的や相手を意識して、文章を読んだり、ポップを作ったりしている。 (行動・ポップ) 「なまえつけてよ」の学習で学んだことを活用して、ポップを作っている。 (ポップ) 語感や言葉の使い方を意識して、ポップを作っている。 (ポップ)
	実行・振り返り		三原中央図書館 ポップを活用したコーナー作り			

本時の学習

【5学年 本時の目標】

- 題名に着目して作者が物語に込めた思いについて読み取ることを通して、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【準備物】

挿絵、

【6学年 本時の目標】

- 書き出し部分や最後の一文に着目して作者が物語に込めた思いについて読み取ることを通して、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【準備物】

挿絵、

○評価規準【教科】 ★望ましい姿【資質・能力】 (評価方法)	指導上の留意点	学習活動		学習活動	指導上の留意点	○評価規準【教科】 ★望ましい姿【資質・能力】 (評価方法)
<p>★主体性、積極性 課題追究、解決を繰り返して学習を進めている。 (行動)</p> <p>★論理的思考力 言葉にこだわり、題名について多面的に見ている。 (行動、発言)</p> <p>○読むこと（論理的思考力） 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (ノート)</p> <p>★他者理解・他者との協働 相手のよさ、意見や考え方の違いを認め、受け止めている。 (発言、ノート)</p>	<p>・学習計画から本時の学習課題を確認させる。 ・2つの物語の「ナゾ」について考えることで、本時の学習課題を解決するという見通しをもたせる。</p> <p>本文に出てくる「名前、つけてよ。」と「なまえつけてよ」は、どちらがうのか？</p> <p>・それぞれの言葉が出てくる場面の様子を思い出させたり、もう一度熟読させたりすることで、それぞれの言葉の使われ方を考えさせる。</p> <p>「名前、つけてよ。」 ・牧場のおばさんが言った言葉。 ・漢字を使っている。 ・春花がうれしくなった言葉。 ・物語のはじめに出てくる言葉。 (物語のきっかけ) 「なまえつけてよ」 ・勇太が紙で折った小さな馬に書いた言葉。 ・ひらがなを使っている。 ・春花がうれしくなった言葉。(直前まで、子馬の名前がつけられなくなって残念に思っていた) ・物語の終わりに出てくる言葉。 (物語の結末に関係する)</p> <p>3 物語の「ナゾ」②を確認し、解決する。</p> <p>勇太が紙で折った小さな馬に書いた、ひらがなの「なまえつけてよ」がどうして題名になっているのか？</p> <p>・漢字とひらがなの印象や感じ方の違いについて実感させ、ひらがなで表現している意味について考えさせる。</p> <p>・まとめの書き出しを「作者はこの物語を通して、読者に…」と指定し、課題とまとめの整合性をもたせる。</p> <p>(例) 作者はこの物語を通して、読者に相手のことを思ったさりげない優しさもあることを伝えたいと思います。なぜなら、… (例) 作者はこの物語を通して、読者に男子と女子の友達の関係について伝えたいのだと思います。なぜなら、…</p> <p>・学習を通して考えたことや分かったこと、学習での自分や友達のよかったところについてふりかえりをさせ、学びの自覚化をさせる。</p>	<p>1 本時の学習課題を確認し、課題解決の見通しをもつ。</p> <p>作者はこの物語を通して、読者にどんなことを伝えたいのだろうか。</p> <p>2 物語の「ナゾ」①を確認し、解決をする。</p> <p>「名前、つけてよ。」 ・牧場のおばさんが言った言葉。 ・漢字を使っている。 ・春花がうれしくなった言葉。 ・物語のはじめに出てくる言葉。 (物語のきっかけ) 「なまえつけてよ」 ・勇太が紙で折った小さな馬に書いた言葉。 ・ひらがなを使っている。 ・春花がうれしくなった言葉。(直前まで、子馬の名前がつけられなくなって残念に思っていた) ・物語の終わりに出てくる言葉。 (物語の結末に関係する)</p> <p>3 物語の「ナゾ」②を確認し、解決する。</p> <p>かわいさ、元気よさ、優しさ。 ・作者がこの物語で伝えたいことのキーワード。 ・勇太の人物像。勇太の新たな一面。</p> <p>4 本時の学習課題に対してのまとめをする。</p> <p>5 学習の振り返りをし、次時への見通しをもつ。</p>		<p>1 本時の学習課題を確認し、課題解決の見通しをもつ。</p> <p>作者は書き出しの部分で表現を工夫しているが、どんな意味があるのか？</p> <p>「ぼくは悪くない。」(最初の一文、否定、主語と述語) 「だから、絶対に『ごめんなさい』は言わない。」(強い否定) 「言うもんか、お父さん <u>なんかに。</u>」(倒置法、否定、侮蔑) 「<u>あやまる</u> 気はない。先に <u>あやまる</u> のはお父さんのほうだ。」(「あやまる」の反復、否定、断定)</p> <p>・中心人物「ぼく」(ひろし)のお父さんへの強い否定。 ・お父さんのみが一方的に悪いという「ぼく」の気持ち。 ・ぼくとお父さんとの関係性。 ・物語へのスピード感。</p> <p>3 物語の「ナゾ」②を確認し、解決する。</p> <p>最後の一文「ぼくたちの特製カレーは、びりっとからくて、でも、ほんのりあまかった。」には、どんな意味があるのか？</p> <p>・カレーの味の辛さと甘さ。(中辛) ・ぼく(ひろし)の成長とそれを少し理解してくれた父への思い。 ・ぼく(ひろし)が「ごめんなさい」を言えなかった反省と二人の関係が良くなった雰囲気表現。</p> <p>4 本時の学習課題に対してのまとめをする。</p> <p>(例) 作者はこの物語を通して、読者に六年生の子どものもやもやした気持ちを伝えたいと思います。なぜなら、… (例) 作者はこの物語を通して、読者に親子の心のつながりについて伝えたいのだと思います。なぜなら、…</p> <p>5 学習の振り返りをし、次時への見通しをもつ。</p>	<p>・学習計画から本時の学習課題を確認させる。 ・2つの物語の「ナゾ」について考えることで、本時の学習課題を解決するという見通しをもたせる。</p> <p>それぞれの表現を短冊にして提示することで、表現の工夫に気付かせる。 ・書き出しの部分を読みかせることで、語り手(中心人物)の思いやテンポの良さに気付かせる。</p> <p>・「特製」、「びりっと」、「でも」、「ほんのり」に着目させ、それらの表現の意味を考えさせることで、ぼくの心情や作者の意図を読み取らせる。 ・書き出しと最後の一文の間(物語の全体)からぼくと父の関係の変化に気付かせ、ぼくの心情や作者の意図を読み取らせる。 ・まとめの書き出しを「作者はこの物語を通して、読者に…」と指定し、課題とまとめの整合性をもたせる。</p> <p>・学習を通して考えたことや分かったこと、学習での自分や友達のよかったところについてふりかえりをさせ、学びの自覚化をさせる。</p>	<p>★主体性、積極性 課題追究、解決を繰り返して学習を進めている。 (行動)</p> <p>★論理的思考力 言葉にこだわり、題名について多面的に見ている。 (行動、発言)</p> <p>○読むこと（論理的思考力） 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (ノート)</p> <p>★他者理解・他者との協働 相手のよさ、意見や考え方の違いを認め、受け止めている。 (発言、ノート)</p>